



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHIKI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 「輝かそう、あなたの光を」
- アジア会長主題 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
- 東日本区理事主題 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
- あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
- 東京西クラブ会長主題 「楽しく、元気で、そして仲間を迎えよう！」

2023年5月号

NO 560

若者も^う倦み、^{のぼ}疲れ、勇士もつまずき倒れようが、主に望みおく人は、新たな力を得、鷺のように翼を張って上る。走っても疲れることなく、歩いても疲れない。 イザヤ書 40章 29節・30節

壁に耳あり、ましてや

吉田明弘

20年も前、2004年7月の東京西クラブの例会は大いに湧きました。この日は、真野範一あずさ部長（東京八王子）の公式訪問でした。会員16人のクラブに23人のゲスト・ビジターが集いました。

部長は年度最初の訪問に東京西を選ばれたのです。その第一声は「新設したクラブにメンバーが移籍したこともあるが、東京西クラブは在籍数13人になった。国際協会では15人以上のクラブを“Good standing club”としている。速やかに会員を増やして、“Good standing club”に復帰してほしい」普段は柔和な真野さんには似合わない、厳しい口調でした。

会は和やかに進み、どういう場面だったか忘れましたが、その日、ゲストとして参加していた大野貞次さんが立ち上がり、「お話をいろいろ伺いましたが、もし私が入会することで、クラブが“Good standing club”になるのなら、入

会を考えます」と発言。一同、一瞬啞然とし、そして驚喜の拍手となりました。

大野さんは、2月例会に神谷幸男さんが同じ教会の会員ということで、同道されたのですが、自己紹介で体調が万全でないと言われたような気がしました。ですから、あまり積極的に入会を誘っていませんでした。今考えると、奥さんが病氣療養中といわれたことと混乱してしまったのかも知れませんでした。

この部長公式訪問の例会には、後にメンバーとなる篠原文恵さん、本川悦子さんも出席していました。2人とも、常駐スタッフも、会館もなくなった杉並YMCAで会員とワイズメンで行なっている、「ひだまり体操教室」「WHOウォーキング」「バザー」に参加していましたが、突然、東京西クラブに入会を申し込んだのです。

(以下、6月号に続く)



5月、ワイズ日和

五月の空に鯉のぼりが泳いでいます。後ろの森でウグイスが「ホーホケキョ」。鯉のぼりは暦通りですがウグイスは、感覚に従っているのでしょうか。ある人が、鯉のぼりを動画で撮って友人に季節の挨拶を送ろうとしたら、鳴き声が入ってしまったそうです。

その点、ワイズの方は、例年通り、暦通りに進みます。5月の催しは、次の通りです。

クラブ例会（18日・木・p2）、クラブ事務会（25日・木）東京YMCA 会員大会（27日・土・p2）、在京クラブ会長会（27日・土・p2）です。そして6月の東西日本区大会へと向かいます。

クラブ役員

- 会長 高嶋美知子
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 篠原 文恵
- 担当主事 横山 弥利

4月の記録		ニコニコ	8,500円
在籍者数 12人 (内功労会員) 1人	メ ネット 0人	クラブファンド	0円
出席者数 9人	コ メ ッ ト 一人	ファンド残高	114,715円
メーキャップ 0人	ビ ジ タ ー 6人	ホテ校ファンド	2,500円
出席率 82%	ゲ ス ト 2人	ホテ校残高	60,570円
内 Zoom 参加 0人	出席者合計 17人	WHO 参加者	54人

5月例会のご案内

強調テーマ：リーダートレーニング
ユース

JR 山手線の内側、職安通りと大久保通り間は、コリアンタウンとして、さまざまな形で現在の日韓の主張や文化が交わっています。この地に日本とコリアの交流の歴史を学べる場として、開設した高麗博物館の理事、村野繁さんをお招きし、卓話をうかがいます。ぜひご参加下さい。

日時：5月18日(木)18:30~20:30

会場：ウェルファーム杉並 03-5335-7330

会費：1,000円(夕食代として)

担当：A班(石井、吉田)

開会点鐘

ワイズソング(静唱)

聖句朗読・祈祷

ゲストご紹介

会食

卓話

「新宿コリアンタウンからみた

日韓問題の移り変わり」

NPO法人高麗博物館理事

村野 繁さん

受付 篠原 文恵

司会 石井 元子

会長・高嶋美知子

一同

村野 絢子

会長

ハッピーバースデー

会長

ワイズ報告

会長、各担当

YMCA 報告

横山 弥利

ニコニコ

一同

閉会点鐘

会長

—4月事務会報告—

日時:4月27日(木)17:00~19:00

会場:YMCA山手センター

出席者:大野、神谷、篠原、本川、
村野、吉田

<報告事項>

①4月例会で後藤あずさ部長公式
クラブ訪問を受けた。

②2025—2026年度の部長輪番が
当クラブだが、辞退したい旨、
評議会に議案を提出した。5月
13日部評議会で審議される予
定。

<協議事項>=例会関係=

①次年度の事務会の会場を阿佐
ヶ谷区民センターにする。

②今後の予定

5月の卓話:

中央大学教授・大貫裕之さん
「SDGs」の現在

6月:クラブ年次総会

7月:クラブ役員交代式

卓話は未定とした。

<協議事項>=例会以外=

①現行例会の企画、進行をA、B、
C班で行っているが、現状の人員
では、3班に分けることに問題
がありあずさ部部長、次年度
からA、Bの2班にして運営す
ることとした。

②ブリテンの編集については、問

題点が指摘されたが、ページ数、
担当などにわたり、課題が整理
されず、次回以降に持ち越すこ
とになった。

③その他

東日本区大会:6月3、4日

会場:APIO 甲府

(書記・本川悦子)

5月例会、卓話の変更

4月例会の卓話が、都合で変更と
なり、5月は東京世田谷クラブ、村
野繁さん(高麗博物館理事)にお願
いし、7月例会に中央大学教授・大
貫裕之さんに「再生可能なエネル
ギーの現在」と題してお話いただ
くことになった。

ホテル校、今年の奨学生決まる

今年度、クラブの奨学金を受け
る東京YMCAホテル専門学校の
学生が決定しました。ベトナム出
身のVU HOANG DUNG(ヴー
ホアンズン)さんに決まりました。
日本にあるホテルでの勤務を希
望し、就職活動中です。

東京西クラブのホテル学校の
留学生に対する奨学金贈呈は、
2007年から始まりました。奨学
金を受けた卒業生は、いまや世界
中のホテルや周辺で活躍してい

卓話者紹介

村野 繁(むらの・しげる)さん

1937年生まれ。1965年、東京山手クラブに入会、1967年、東京目黒クラブにチャーターメンバーとして移籍、現在、東京世田谷クラブに在籍。南東部長、東新部長などを歴任。お年玉年賀切手によるアジア資金づくりを発案。長くアジア地域のBFフィラテリストを務めている。現役時代は家庭電気製品製造会社、住宅産業会社の技術者。キッチンスペシャリスト。

ます。今年は、6月例会において
で贈呈式を行なう予定です。

奨学金基金は、ホテル校ファンド
として募っています。ご協力をお
願いします。

あずさ部評議会報告。

あずさ部評議会は、5月13日
(土)松本市・駅前会館でおこな
われました。あずさ部らしい活発な
論議と元気な懇親会がありまし
たが、報告は評議会の報告ととも
に次号掲載といたします。



写真左は、後藤明久部長の公式訪問を迎えての、参加者全員の写真

参加17人中、ゲスト・ビジター8人、メンバー・メネット9人は、うれしくもあり、さびしさもあります。でもみんな笑顔でした。写真左下は、後藤部長、写真右下は、卓話者の二俣裕美子さん

－ 4 月例会報告－

4月例会は、午後6時30分か杉並区天沼のウエルファーム杉並の会場で開催されました。

当日はあずさ部部長の公式訪問日となりました。高嶋会長が体調を崩されお休みでしたので副会長の吉田明弘さんによって開会点鐘が行われました。

後藤明久あずさ部長の挨拶があり、また千葉ウエストクラブの高田一彦さん、長尾昌男さんからウエスト連合(クラブ名に“西”、“ウエスト”の付くクラブ)新加入の挨拶がありました。

会食後、卓話者の二俣裕美子さん(弓町本郷教会会員)から音楽療法士になられた経緯、療法士のあれこれをスライドを使いお話されました。キリスト教幼稚園で神様の存在を感じ育ち、その後、音楽大学に在学中に障害を持つ子どもに出会い、意志疎通の難しさを痛感し音楽療法による方法でできないかを学んだ。

障害を持つ子どもたちは赤ちゃんの様で刺激をうけとめにくい・やり取りを体験しにくい・適切な反応が出来にくい。そこで二俣さんが赤ちゃんにしていること、一緒に過ごせる・歌う・手拍子・合いの手、それぞれについてレジメに沿ってお話をしていただいた。そして楽器(トーンチャイム等)を使って私たちも音楽を体験して楽しい時間を過ごすことが出来ました。会員からはまた体験したいとの声もありました。軽快な話術・指導力を感じた時でし



た。感謝いたします。(大野貞次)
出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、本川、村野、横山、吉田、<ビジター>後藤明久(あずさ部長・富士五湖)後藤昭子(部書記・同)、藤江(東京たんぽぽ)、藤井(東京江東)、高田、長尾(千葉ウエスト)、<ゲスト>二俣裕美子(卓話者)、尹相優(弓町教会伝道師)

YMCA Today

■ホテル学校は4月18日から新学期が開始。1年生は週2回ホテルでの授業が行われます。ホテルニューオータニでは宿泊部門、ホテルメトロポリタンでは料飲(レストラン)部門の授業が行われ、現役ホテルマンが直接指導し、実戦感覚もどんどん磨かれていきます。2年生は2月にスタートした就職活動が順調です。観光業界の回復基調や新規ホテルの開業予定も多数あり、企業の採用意欲は非常に高く、現在89人中、既に57人(64%)が内定を得ました。1年生は新しい学校生活をスタートさせ基礎学習を、2年生は選択授



業で将来を見据えた専門性を磨いていきます。スタッフ一同しっかりサポートしていきます。

■4月1日にオンラインで行われた「職員就業礼拝」には職員約100人が出席。古賀博牧師(日本基督教団早稲田教会/公益財団法人東京YMCA評議員会会長)に説教をいただき、「全体職員会」では3法人代表者から挨拶と新年度運営方針の説明があり、新入職員4人から代表者が抱負を語りました。

■「第32回チャリティーゴルフ大会」が4月13日にPGM総成ゴルフクラブで開催。24グループ、87人が参加し、益金約400,000円は、障がい児プログラム支援、フレンドシップファンド、不登校の子ども支援、国際協力募金に用いられます。チャリティーゴルフ実行委員会が準備と運営を担い、多くの企業や個人から協賛をいただきました。

■山手センターで行われる東京YMCAの「第20回会員大会」は5月27日(金)に予定されています。

担当主事 横山弥利

WHOウォーク 5月予定 野火止の古刹、平林寺



野火止(のびとめ)といわれた武蔵野台地に拓かれた水路が、広大な沃地を生みました。開削は“知恵伊豆”と呼ばれた川越城主、老中松平伊豆守信綱の命によるもので、別称「伊豆殿堀」です。

一方、平林寺は、南北朝時代に現在のさいたま市岩槻に創建され、松平一族の菩提寺でした。寛文3(1663)年、信綱の遺命によって、現在地に移転しました。

今回は、平林寺の臨濟禅の専門道場としての、凜としたたたずまいに触れながら、東京ドーム9個分の、境内林の新緑のかぐわいを感じ、野火止用水緑道の一部で、さまざまな緑色と、咲き競う野の花を満喫しましょう。

期日：2023年5月27日(土曜日)

コース：「西武池袋線」ひばりが丘駅—<バス>—平林寺—平林寺境内—睡足軒の森—伊豆殿橋—野火止緑道—野火止緑地総合公園—JR 武蔵野線・新座駅
◎当日の参加人数、天候・疲労度などによってコースを変更することがあります。道はどこも平坦です。

集合・出発：西武線ひばりが丘駅改札口10:00(バスの時間があります。時間厳守)
受付：初回の方は、必ず連絡先住所、電話番号を書いてください。これまで書いていない方もお願いします。

解散：JR 武蔵野線・新座駅14:30頃

路線バスで西武池袋線に向かうことも可能です。

携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当、シート。(平林寺境内は飲食禁止のため昼食時間が遅くなります)

参加費：300円、交通費、拝観料500円は各自負担。初参加の方は、名札代200円(必ず装着してください)

野鳥の楽園、谷津干潟は —4月ウォーキング報告—



「たまには、千葉方面に」という声に応じて習志野市の谷津干潟を選びました。かつて谷津遊園、谷津海岸として人気がありました。高度成長の時代に東京湾は埋め立てられ、干潟は追い詰められました。自然保護団体、地元住民の運動と国の指導もあり、長方形の干潟公園が残り、野鳥の楽園となっています。

当日はJR 総武線津田沼駅に集合、バスで10分、東口から園内に入りました。干潟は東京湾と2本の川でつながって干満は東京湾とは50分遅れです。自然観察センターまで干潟を観ながら歩き短いレクチャーを受け芝生広場で昼食。ここで、自然観察組と野鳥観察組に別れました。バードウォッチングには14人が参加しました。

この日は干潮が午後1時26分。潮が引いていくさま、カニや野鳥の活動を観ることができました。同行のレンジャーによると、干潟で見ることができた野鳥は、コガ

モ、ハシビロガモ、スズガモ、オオバン、カルガモ、アオサギ、メダイチドリ、ダイゼン、チュウシヤクシギだったそうです。



写真上：かつて谷津遊園地があった付近から観る満ちてきた潮
写真左下：バードウォッチングの様子

干潟を半周したところで、2組合流、なんとなく遊園地華やかな頃の雰囲気を残す駅前商店街を抜けて京成線・谷津駅で解散しました。

参加者54人はコロナによる中断の再開後、最多でした。やはり千葉方面の方も増え、千葉市在住のワイズメンズクラブのご夫婦の応援参加もありました。(吉田)ワイズ関係者参加者：石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぽぽ)、青木一芳・青木清子(千葉)、青木一枝(東京グリーン)、関(元石巻広域)

WHOウォーク今後の予定

6月は24日(土)です。有明の卸売市場とその周辺の緑を楽しみましょう。

以前の築地市場は、いかにも下町の風情がありました。場内市場に素人も入れました。建物が解放的でしたから、トリやネズミも出入り自由でした。食品衛生の観点からは、問題でした。新市場が、どう変わったかが見どころです。

7月、8月は、暑さを避けて、お休みです。

9月以降は、下町の社寺、人気商店街、モミジの名所など。提案もお寄せ下さい。

☆☆インタビュー☆☆117☆☆
森本 俊子さんに聴く
長野クラブ

* * *



—森本さんは、今一番はまっているのは。

「ハンドベルです。チームを組んで今日はここ、明日はあそこというほど演奏しています。きっかけは、長野五輪の施設を後利用として、ハンドベル愛好者を、全国、世界から集めようと考えた友人に協力したつもりだったのですよ。ちなみに、世界大会やアジア大会、福岡、大阪、リバプール、バンクーバー、仙台などに行きました。

—お生まれは、長野ですか。

「ええ、諏訪市です。1945年9月21日生まれです。父は製糸家の末っ子。戦争によって家業の急激な衰退と没落を経験し、自身は結核感染のため目指していた医者への道は閉ざされた人でした。第二次大戦末期に結婚、生まれた女の子の私を溺愛してくれました。弟が2人生まれましたが、私が1番。何をやっても父は褒めてくれて、それが嬉しくて頑張っていたように思います。

基督教団柳町教会の日曜学校や、中学生のクラスにも通っていました。楽しい良い思い出があります」

—学校時代は、

「小、中、高校と音楽クラブ。生徒会役員もやりました。大学時代には、激しかった学生運動の最中で学生寮の寮長もしました」

—東京の大学には進まなかった。

「高校2年の時父を亡くし、2人の弟も大学に出したいという当時38歳の母に、長野県内の国

立大学への進学を告げました。そのころ、育英会の奨学金に無返還の月8,000円支給という制度があり、運よくそれをいただくことが決まりました。ちなみに寮費は月100円、食費は月3,000円でした。英語科の所属でしたが、入学後に音楽科の試験を受けて音楽科の授業も受けられることになりました。1年生から専門の授業を受けることができる最後の時代で、英語科は1学年6人、音楽科も6人だったかと思います。ピアノ練習室も朝5時から夜10時まで使えて、夢中で過ごした学生時代でした」

—就職は信越放送。ジャーナリズム志望でしたか。

「教育学部出イコール教員という、敷かれたレールに黙って乗ることを嫌ったからです。高度成長期のまっただ中で、東京五輪の直後でした。幸い、男女同一労働同一賃金という進んだ労働条件の会社でしたので、思いっきり働きました」

—どのような仕事ですか。

「報道制作局制作部に所属し、当時はテレビもラジオも同時に担当していましたから、キー局の番組のアシスタントディレクターとして『家族そろって歌合戦』などを何回も担当しました。

その後番組審議会の事務局やPR誌の編集なども経験し、その間結婚、出産、再びラジオ番組の制作に携わりました。『母の日に歌うコーラスの祭典』を立ち上げ20年携わりました。常に面白いものを求め、追いかけて、人に会い、人と向き合っていました。社内の付き合いよりは、社外の付き合いの方が、多かったと思います。2人の子どもを育て、新聞記者で単身赴任10年の夫に付き合いながらの暮らしてました」

—ワイズ、YMCAとの出会いは。

「ワイズには、YMCA主事湯田勝彦さんが長野へ転職して見え、奥さんを通して知りあいました。長野クラブの例会に卓話を依頼

され、それですると」

—長野クラブの国際加盟は2010年でしたね。

「私はチャーターメンバーではありますが、創立の苦労は何も知りません。水崎よし子さんが聖救主教会のお仲間を誘って設立、その中に湯田さんがおられたというわけです。長野市はYMCAにもワイズにもなじみのない土地ですから大変だったそうです。甲府クラブの故平原卓美さんはじめ数人の方がものすごい情熱でお誘いくださったようです。

信越妙高クラブとは、東北被災地支援に何度も一緒に活動しました。

東日本区の区大会のホストをしたことも大きな弾みになりました」

—次々に企画を打ち出されましたね。

「メンバーの故小林美彦さんが障がい者の目線での活動を推進したいと、多くの協力者を集めて様々な活動をしました。クラブのメンバーも初めての経験をさせてもらい夢中で活動しました。

区の企画のエイズ対策キャンペーンではメンバーの医師江夏一彰さん（後に東京武蔵野多摩に転籍）に専門学校生への出前授業をお願いしました。

栄村にも数年にわたり支援活動を行いました。あずき部の方々の協力で特別例会を何度も開き、村の人たちの語りを聞いたり、ハンドベル演奏会や、冬には遊雪の会もしました。西日本区の方も、参加してくださいました」

—今感じられていることは。

「研修会などに出て、先輩ワイズメンの並々ならぬ情熱と心温かい対応を知るにつけ改めてワイズメンズクラブの良さを感じております。ワイズメンズクラブ100年を過ぎた今、自分の置かれた場所をよく見ながら、よく考えて活動したいと思います」

—どうも有難うございました。

(吉田明弘)

気分転換は料理④ パン特にバゲット

村野絢子

母は後年伯母（姉）と2人暮らしだったころ、3、4日に1度食パンを焼いていた。弟のプレゼントしたパン焼き器で簡単に作れるのも気に入ったのだろう。そういえば教会の友人 M さん（先日102歳でみ許に召された）は「1日3食、パンでもいい」が口癖でいらした。教会の食事会がパン食の時の笑顔を思い出す。

わが家にも固くしっかり焼けたバゲットが好物の娘がいる。焼きたてに出会えば、1本とは言わないが半分以上がその場で無くなる。その日の夕食後のお皿はきれいに拭き取られている。残りを

うっかり1切ずつラップし、冷凍し忘れると大変である。ところがその時こそタッパーにミルクと砂糖を加えた卵液を作り、パンを3~5センチに切って浸けておき、バターで焼けばフレンチトーストに変身する。ラスクにするのも良い。5~7ミリに切り、柔らかくしたバターを薄く塗り、グラニュー糖を振りかけて130℃~150℃で10~15分焼けば完成。

冬は暖かい鍋か、魚や肉・野菜のたくさん入ったシチュー、赤ならトマトシチュー・白いミルクと粉・バターでホワイトシチュー・黄色はターメリックやパプリカの入ったカレーシチューで決まり。どれもパンに合う。ひき肉料理ミートローフ、肉団子、オムレツも良く会う。サラダは言うまでもないが、アボガドサラダがパン

と会う。レタスカキャベツを刻み、ベーコンを刻んで炒め、その油ごと野菜に混ぜ、アボガドをころころ乗せるだけのシンプルサラダである。ポテトサラダが残っていたらそれも乗せる。和泉教会の特性マーマレードの復活は何時になるだろう。多くの人が待っている。今は美味しいパンが手に入るが、炒めた玉ねぎを入れたパンが好評だったのは40年前の話、もう焼かない。



「一期一会」

羽生結弦さんの
アイスショーを観て

河原崎 和美

フィギュアスケートの羽生結弦さんのアイスショーが東京ドームで開催され、それを観に行ったときの事です。五輪二連覇を果たし、東京ドームでのスケーターとしての単独公演は史上初とのことで前評判もかなりの盛り上がりでした。ラッキーなことにチケットを取ることができ、素敵この上ないアイスショーを心躍らせ観に行きました。

昨年の北京オリンピックのショートプログラム「序奏とロンド・カプリチオーソ」では成功することができず「氷に嫌われちゃったな」と悔しそうに言っていた4回転サルコウも見事に決め、ピアノの一音一音を捉えきる演技を披露しプログラムの世界を体現してみせしてくれました。観客は皆、総立ちになり東京ドームが一体になりそれは素晴らしかったです。

公演後のインタビューで羽生

さんは「フィギュアスケートならではの一期一会の演技ができたことを誇りに思います。幸せな体験をさせてもらいました」と語っていました。常に前向きで挑戦し続ける姿をずっと見せてくれる羽生さん。皆に勇気と感動を与え、明日も頑張ろうと力をくれているのは間違いないでしょう。私も一期一会の出会いを大切に、毎日楽しく前向きに生きていきたいと思っています。

双眼鏡をもって野鳥観察

WHO ウォーキングで谷津干潟の野鳥観察をしました。この日は私たちの訪れた干潟には、9種類の鳥が訪れていたそうです。観察をする前に、観察センターでオリエンテーションを受けました。双眼鏡を持つのは久しぶりでした。

両眼を当ててのぞくと、赤い膜がレンズをカバーしているように見えました。多分、スイッチを押せば全開になるのだろうと思っていたら、レンジャーはそのことには触れず先に進めます。自分で解決せざるを得ないと、いろいろひねくり回していると、周囲が

気づいて、「何をやっているんですか」「赤いフィルターが邪魔して何も見えないんです」「私に見せてください」「ちゃんと見えませよ」「そんなことない」「吉田さん、前の人の背中をみてるんじゃないですか」

なるほど、前に座っている人が赤いウインドブレーカーを着ていました。(AY)

編集後記

「例会後に届くブリテンなんて一文の価値もない」と、東京まちだクラブの故小山正直さん(元区理事)はよく言われていました。ブリテンエディターになった時は、せめて例会日の1週前に届くようにと自ら律していました。それが、インターネット配信が出来るようになって、封筒詰め、切手貼りがなくなり、随分楽になりました。ところが今号は、どうしたことか、すっかり遅くなってしまい、例会当日、自分のクラブの例会に持参できるか、どうか、です。一つが狂うと、あちこち支障が出てきます。健康管理と同じようです。(AY)